

語

第1問 次の文章は、近年さまざまな分野で応用されるようになったレジリエンスという概念を紹介し、その現代的意義を論じたものである。これを読んで、後の問い(問1～問5)に答えよ。なお、設問の都合で本文の段落に①～⑭の番号を行ってある。(配点 50)

① 環境システムの専門家であるウォーカーは、以下のような興味深い比喩を掲げ出している。

② あなたは、港に停泊しているヨットのなかでコップ一杯の水を運んでいるでしょう。そして、同じく運ばれた海を航行しているときに雨が降ると、港に停泊しているときにコップの水を運ぶのは簡単である。この場合は、できるだけ早く、しかし早すぎないように運ぶはよいのであって、その最速解は求めやすい。しかし、波風が激しい大洋を航海しているときには、早く運べるがなかなか二の次で、不意に大きく揺れる床の上で転ばないでいることが重要になる。あなたは、勝を競い、突然やってくる船の揺れを吸収し、パナマをとらねばならない。海の上での解は、妨害要因を吸収する能力を向上させることをあなたに求める。すなわち、波に対するあなたのレジリエンスを向上させることを求めるのである。

③ この引用で言う「レジリエンス(resilience)」とは、近年、さまざまな領域で用いられるようになった注目すべき概念である。この言葉は、「擾乱を吸収し、基本的な機能と構造を保持し続けるシステム」の能力を意味する。

④ レジリエンスの概念をもう少し詳しく説明しよう。レジリエンスは、もともと生物学者のなかで物質代謝の形状に戻る「弾性」のことを意味する。六〇年代になると生態学や自然保護運動の文脈で用いられるようになった。そこでは、生態系が変動と変化に対して自己を維持する過程という意味が使われた。しかし、ここで言う「自己の維持」とは単なる物理的な弾力のことではなく、環境の変化に対して動的に反応していく適応能力のことである。

⑤ レジリエンスは、回復力(復元力)、あるいは、サステナビリティと類似の意味合いをもつが、A(そこ)にある微妙な意味の違いに注目しなければならない。たとえば、回復とはあるベースラインや基準に戻るとを意味するが、レジリエンスでは、かならずしも固定的な原型が想定されていない。絶えず変化する環境に合わせて流動的に自らの姿を更替しつつ、それでも目的を達成するのがレジリエンスである。レジリエンスは、均衡状態に到達するための性質ではなく、発展成長する動的過程をシミュレーションするための性質である。

⑥ また、サステナビリティに類似して、たとえば、「サステナブルな自然」といったときには、唯一の均衡点が生態系のかなにあるかのように期待されている。しかしこれは自然のシステムの本来の姿とは合わない。レジリエンスで目指されているのは、ケン(コウ)ダイナミクスである。レジリエンスには、適度な失敗が最初から含まれている。たとえば、小規模の森林火災は、その生態系にとって資源の一部を再構築し、栄養を再配分することで自らを更新する機会となる。こうした小規模の火災まで防いでしまうと、森林は燃えやすい要素をため込み、些細な発火で破壊的な大火災にまで発展してしまう。

⑦ さらに八〇年代になると、レジリエンスは、心理学や精神医学、ソーシャルワークの分野で使われるようになった。そこでは、ストレスや災難、困難に対処して自分自身を維持する抵抗力や、病状や変化、不運から立ち直る個人の心理的な回復力として解釈される。

⑧ たとえば、フレイサーは、ソーシャルワークと教育の分野におけるレジリエンスの重要性を主張する。従来は、患者の問題を専門家から除去するという医学中心主義的な視点でソーシャルワークが行われていた。患者の問題の原因は患者自身にあるとされ、患者を治療する専門家にケアの方針を決定する。ケンゲンが渡された。こうして患者は医師に依存させられてきた。これに対して、レジリエンスに注目するソーシャルワークでは、患者の自覚性と潜在能力に着目し、患者を中心とした援助や支援を行う。

⑨ フレイサーのソーシャルワークの特徴は、人間と社会環境のどちらかではなく、その間の相互作用に働きかけることにある。クライアントの支援は、本人の持つレジリエンスが活かせる環境を構築することに焦点が置かれる。たとえば、発達障害のある子どもに対して、特定の作業で務められるような仕事をどの子どもにも同じように教えることは妥当ではない。そうすると身につける能力が「カクヨ」で特定の作業所に依存してしまい、学校が作業所へという流れの外に出ることができなくなる。それでは一種の隔離になる。子どもの潜在性に着目して、職場や環境が変わっても続けられる仕事につながるような能力を開発すべきである。

⑩ B(ここ)でレジリエンスにとって重要な意味をもつのが、「脆弱性(vulnerability)」である。通常、脆弱性はレジリエンスとは正反対の意味を持つと考えられている。レジリエンスは、ある種の「カクヨ」を意味し、脆弱性は回復力の不十分さを意味するからである。しかし見方を変えれば、脆弱性は、レジリエンスを保つための積極的な備えとなる。なぜなら、脆弱性とは、変化や刺激に対する感受性を意味しており、このようなセンサーをもったシステムは、環境の不規則な変化や擾乱、悪化に早く気づけるからである。たとえば、災害に対して対応力に富む施設、建築物を作り出したいのな、障害者や高齢者、妊娠中の女性にこそ避難しやすい作りになることが最善の策となる。

⑪ さらに、近年のエンジニアリングの分野においては、レジリエンスは、安全に関する新しい発想法として登場した。レジリエンス・エンジニアリングとは、複雑性を持つ現実世界に対処できるように、適度な冗長性を持ち、柔軟性に富んだ組織の能力を高める方法を見いだすものである。エンジニアリングの分野では、レジリエンスは、環境の変化に対して自らを変化させて対応する柔軟性にきわめて近い性能として解釈される。

⑫ 以上のように、レジリエンスという概念は特徴的なことは、それが自己と環境の動的な調整に関わることである。回復力とは、システムが相互作用する一連の過程から生じるものであり、システムが有している内生的性質ではない。レジリエンスの獲得には、当人が当該システムの能力の開発のみならず、その能力に見合うように環境を調整したり、現在の環境を改変したりすることも求められる。レジリエンスは、複雑なシステムが、変化する環境のなかで自己を維持するために、環境との相互作用を連続的に変化させながら、環境に柔軟に反応していく過程のことである。

⑬ レジリエンスがこうした意味での回復力を意味するのであれば、C(それを)ニマルな福祉の基準として提案できる。すなわち、ある人が変化する世界で生きていくには、変化に適切に対応する能力が必要であって、そうした柔軟な適応力を持つよううにすることが、福祉の目的である。福祉は、その人のニーズを充足することである。ニーズとは人間の生活を送る上で必要とされるのである。ニーズを充足するには他者から与えられるものを受け取るばかりではなく、自分自身でそのニーズを能動的に充足する力を持つ必要がある。そうであれば、自律的な生活を継続的に送れるからである。

⑭ レジリエンスとは、自己のニーズを充足し、生活の基本的条件を維持するために、個人が持たなければならない最良の回復力である。人間は動物ではなく、生きていく。したがって、病を得て、あるいは、脆弱となつて自己のニーズを満たせなくなると個人に対してケアする側がすべきは、物を修復するような行為ではないし、単に補償のための金銭を付与することでもない。物を復元すること、生命あるものが自己を維持することとはまったく異なる。生命の自己維持活動は自発的であり、生命自身の能動性や自律性が要求される。したがって、ケアする者がすべきは、さまざまに変化する環境に对应しながら自分のニーズを満たす力を獲得してもらうように、本人を支援することである。

(10) 前野浩一「境界の現象学」(10)